



2020年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2019年11月1日

上場会社名 株式会社リーガルコーポレーション 上場取引所 東
 コード番号 7938 URL https://www.regal.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩崎 幸次郎
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 管理本部長 (氏名) 安田 直人 (TEL) 047-304-7084
 四半期報告書提出予定日 2019年11月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第2四半期の連結業績(2019年4月1日~2019年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第2四半期	14,514	△4.7	△170	—	△78	—	△216	—
2019年3月期第2四半期	15,234	△2.7	28	△73.3	142	4.6	26	△73.4

(注) 包括利益 2020年3月期第2四半期 136百万円(—%) 2019年3月期第2四半期 △346百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第2四半期	△68.52	△67.67
2019年3月期第2四半期	8.33	8.23

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第2四半期	29,793	15,919	53.0
2019年3月期	30,309	16,003	52.4

(参考) 自己資本 2020年3月期第2四半期 15,798百万円 2019年3月期 15,883百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	70.00	70.00
2020年3月期	—	0.00	—	—	—
2020年3月期(予想)	—	—	—	70.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日~2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	31,000	△5.9	300	△65.8	400	△61.2	100	△80.5	31.67

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年3月期2Q	3,250,000株	2019年3月期	3,250,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期2Q	92,353株	2019年3月期	92,293株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年3月期2Q	3,157,688株	2019年3月期2Q	3,156,562株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュフロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用や所得環境の改善が続くなか、景気は緩やかな回復基調で推移しておりますが、通商問題を巡る緊張が世界経済に与える影響や海外経済の不確実性、消費税増税後の消費の落ち込み懸念等により、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

靴業界におきましては、ワークスタイルの多様化や国際的なスポーツイベントが続くことによるスポーツ機運の高まりにより、カジュアル志向のスポーツシューズ需要が好調を維持するなか、消費者の節約・低価格志向は依然として根強く、加えて異業種による靴小売業への参入やEコマースの拡大による消費チャネルの多様化等により競争が激化し、厳しい経営環境が続いております。

このような環境のなか、当社グループは、靴小売事業を核とした製造小売業型の機能を高め、企画・開発から製造、調達、販売まで各部門がスピード感をもって連携することによって効率化を図るとともに、顧客ニーズやライフスタイルの変化に対応した商品開発や店舗提案を行い、新たなマーケットを創造していくことを重点課題として取り組んでまいりました。

売上面につきましては、オフィスカジュアルの浸透や対象顧客の節約志向等の影響から、値ごろ感やオンオフ兼用等汎用性の高い商品は堅調に推移したものの、中・高価格帯のビジネスシューズや婦人靴全般が苦戦し、全体では前年実績を下回りました。

利益面につきましては、販売管理費は削減したものの、売上高の減少に伴う売上総利益額の減少や滞留在庫品の処分値引の増加による売上総利益率の低下等により、各利益ともに前年実績を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は14,514百万円(前年同四半期比4.7%減)、営業損失は170百万円(前年同四半期は営業利益28百万円)、経常損失は78百万円(前年同四半期は経常利益142百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は216百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益26百万円)の計上となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

(靴小売事業)

靴小売事業では、マーケットやライフスタイルの変化に対応した店舗開発を行うとともに、多様化する顧客ニーズや地域特性に対応した商品・販促提案を行い、店舗運営を通してのブランド価値の向上とビジネスチャンスの拡大を目指しました。

業態別・売上面につきましては、「ケンフォードショップ」および「シューズ・ストリート(ネット通販)」は堅調に推移いたしました。しかしながら主力の「リーガルシューズ店」においては、地方都市を中心に生活防衛意識が高まるなか、ビジネスカテゴリーの商品動向が依然として鈍く、更にEコマースの拡大による競争の激化等により厳しい状況が続いており、全体では売上高は前年実績を下回りました。

利益面につきましては、当社ブランドショップにおいては2014年時のような消費税増税前の目立った駆け込み需要は少なく、先行きの不透明感から消費心理が冷え込み、売上高の減少に伴う売上総利益額の減少等により、前年実績を下回りました。

当第2四半期連結累計期間の店舗展開につきましては、「サントーニ大丸心斎橋店」(大阪府)など計4店舗を新規で出店し、「リーガルシューズららぽーと横浜店」(神奈川県)など計3店舗を改装するとともに、不採算店7店舗を閉店いたしました。(直営小売店の店舗数125店舗、前連結会計年度末比3店舗減)

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,264百万円(前年同四半期比6.2%減)、営業損失は12百万円(前年同四半期は営業利益46百万円)となりました。

(靴卸売事業)

靴卸売事業では、変化する顧客の購買行動に対応すべく、従来の卸売業と小売業の垣根を越えて、顧客との接点を拡張、強化する取り組みに注力いたしました。

顧客との接点強化施策としましては、縮小傾向にあるGMSや百貨店内の売場確保を目的とし、卸売子会社が提案するGMSや地方百貨店を中心とした売場「キャメロット」や百貨店内のインショップ「フィットイン」、リーガルブランドを集積した「リーガルコーナー」などを積極展開しております。

紳士靴につきましては、ビジネスシューズ全般が苦戦いたしましたが、「スタイル」だけでなく、防水性・通気性などの「機能性」を備えた商品や履き心地を重視した「リーガルウォーカー」は、堅調に推移いたしました。

婦人靴につきましては、エレガンス系のパンプスやサンダル等季節商材が苦戦いたしました。

全般的には、個人消費の根強い低価格・節約志向を背景に、百貨店、量販店、郊外型店舗における来店・購買客数が減少したことに加え、サンダル等季節商材やインポートブランドの処分値引が増加したことによる売上総利益率の低下等により、売上高、営業利益ともに前年実績を下回りました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は7,219百万円（前年同四半期比3.4%減）、営業損失は203百万円（前年同四半期は営業損失47百万円）となりました。

(その他)

報告セグメントに含まれない不動産賃貸料の収入など、その他事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は94百万円（前年同四半期比26.1%増）、営業利益は29百万円（前年同四半期比129.9%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ516百万円減少し、29,793百万円となりました。

このうち、流動資産の残高は17,636百万円と、前連結会計年度末に比べ837百万円減少しております。

これは、商品及び製品が784百万円増加したものの、現金及び預金が519百万円、受取手形及び売掛金が983百万円減少したことなどが主な要因であります。

固定資産の残高は12,156百万円と、前連結会計年度末に比べ320百万円増加しております。

これは、保有株式の株価上昇などにより投資有価証券が348百万円増加したことなどが主な要因であります。

当第2四半期連結会計期間末における負債の部の合計は、前連結会計年度末に比べ431百万円減少し、13,874百万円となりました。

このうち、流動負債の残高は9,980百万円と、前連結会計年度末に比べ355百万円減少しております。

これは、短期借入金が480百万円増加したものの、支払手形及び買掛金が319百万円、流動負債のその他が415百万円減少したことなどが主な要因であります。

固定負債の残高は3,893百万円と、前連結会計年度末に比べ76百万円減少しております。

これは、長期借入金が47百万円増加したものの、退職給付に係る負債が105百万円減少したことなどが主な要因であります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産の部の合計は、15,919百万円と、前連結会計年度末に比べ84百万円減少しております。

これは、その他有価証券評価差額金が360百万円増加したものの、配当金の支払い221百万円や、親会社株主に帰属する四半期純損失216百万円を計上したことなどにより利益剰余金が433百万円減少したことなどが主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、当第2四半期連結累計期間までの業績動向を踏まえ、2019年5月13日に公表いたしました2020年3月期の通期業績予想を修正いたします。

詳細につきましては、本日（2019年11月1日）別途開示いたします「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,656	3,136
受取手形及び売掛金	5,430	4,447
電子記録債権	502	346
商品及び製品	7,435	8,219
仕掛品	270	275
原材料及び貯蔵品	637	722
その他	795	745
貸倒引当金	△254	△257
流動資産合計	18,473	17,636
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,528	3,533
土地	2,351	2,343
その他（純額）	509	466
有形固定資産合計	6,389	6,343
無形固定資産		
のれん	18	12
その他	123	157
無形固定資産合計	141	169
投資その他の資産		
投資有価証券	2,462	2,810
敷金及び保証金	1,287	1,262
その他	1,770	1,786
貸倒引当金	△215	△216
投資その他の資産合計	5,304	5,642
固定資産合計	11,835	12,156
資産合計	30,309	29,793

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,206	3,887
短期借入金	3,586	4,066
未払法人税等	65	79
賞与引当金	446	386
役員賞与引当金	32	13
ポイント引当金	238	215
店舗閉鎖損失引当金	26	13
その他	1,735	1,319
流動負債合計	10,336	9,980
固定負債		
長期借入金	1,659	1,706
退職給付に係る負債	1,872	1,766
資産除去債務	196	200
その他	241	220
固定負債合計	3,969	3,893
負債合計	14,305	13,874
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,355	5,355
資本剰余金	743	743
利益剰余金	8,786	8,352
自己株式	△193	△193
株主資本合計	14,691	14,257
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	874	1,235
土地再評価差額金	264	260
為替換算調整勘定	86	69
退職給付に係る調整累計額	△33	△24
その他の包括利益累計額合計	1,192	1,541
新株予約権	94	94
非支配株主持分	25	26
純資産合計	16,003	15,919
負債純資産合計	30,309	29,793

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)
売上高	15,234	14,514
売上原価	8,400	8,079
売上総利益	6,834	6,434
販売費及び一般管理費	6,805	6,605
営業利益又は営業損失(△)	28	△170
営業外収益		
受取利息	8	9
受取配当金	43	40
助成金収入	—	33
物品売却益	20	30
雑収入	82	26
営業外収益合計	154	140
営業外費用		
支払利息	15	14
持分法による投資損失	4	1
売上割引	10	8
為替差損	—	23
雑支出	11	1
営業外費用合計	40	49
経常利益又は経常損失(△)	142	△78
特別利益		
投資有価証券売却益	34	—
固定資産売却益	—	27
特別利益合計	34	27
特別損失		
固定資産除却損	21	64
その他	—	0
特別損失合計	21	65
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	155	△116
法人税、住民税及び事業税	99	60
法人税等調整額	27	38
法人税等合計	127	98
四半期純利益又は四半期純損失(△)	27	△215
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	1
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	26	△216

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	27	△215
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△392	360
繰延ヘッジ損益	2	—
為替換算調整勘定	23	△17
退職給付に係る調整額	△7	8
その他の包括利益合計	△374	352
四半期包括利益	△346	136
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△346	136
非支配株主に係る四半期包括利益	0	0

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	155	△116
減価償却費	186	192
のれん償却額	6	6
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△22	3
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△46	△54
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△20	△23
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△8	△22
店舗閉鎖損失引当金の増減額 (△は減少)	9	△13
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△88	△92
受取利息及び受取配当金	△51	△50
支払利息	15	14
持分法による投資損益 (△は益)	4	1
固定資産除却損	21	64
固定資産売却損益 (△は益)	—	△27
投資有価証券売却損益 (△は益)	△34	0
売上債権の増減額 (△は増加)	724	1,136
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△334	△880
仕入債務の増減額 (△は減少)	△465	△197
未払消費税等の増減額 (△は減少)	65	△184
その他	37	△338
小計	153	△582
利息及び配当金の受取額	51	49
利息の支払額	△15	△14
法人税等の支払額	△430	△71
法人税等の還付額	—	103
営業活動によるキャッシュ・フロー	△240	△515

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△82	△124
定期預金の払戻による収入	48	90
有形固定資産の取得による支出	△315	△203
有形固定資産の売却による収入	—	48
投資有価証券の取得による支出	△4	△4
投資有価証券の売却による収入	66	3
無形固定資産の取得による支出	△20	△45
貸付けによる支出	△10	△32
貸付金の回収による収入	1	5
その他	26	25
投資活動によるキャッシュ・フロー	△290	△237
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	200	500
長期借入れによる収入	—	200
長期借入金の返済による支出	△153	△173
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△219	△220
リース債務の返済による支出	△26	△19
その他	△70	△70
財務活動によるキャッシュ・フロー	△270	216
現金及び現金同等物に係る換算差額	31	△14
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△769	△551
現金及び現金同等物の期首残高	4,369	3,555
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,600	3,004

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自2018年4月1日至2018年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	靴小売事業	靴卸売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,744	7,474	15,219	15	15,234	—	15,234
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	59	59	△59	—
計	7,744	7,474	15,219	74	15,294	△59	15,234
セグメント利益又は損失(△)	46	△47	△0	12	12	16	28

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等の事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自2019年4月1日至2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	靴小売事業	靴卸売事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	7,264	7,219	14,483	30	14,514	—	14,514
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	63	63	△63	—
計	7,264	7,219	14,483	94	14,578	△63	14,514
セグメント利益又は損失(△)	△12	△203	△216	29	△186	16	△170

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産賃貸等の事業を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、主にセグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な事項はありません。